

EUSI メールマガジン Vol. 011

「統合深化の必要性と政治的脆弱性のジレンマ」(網谷龍介)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 008】

「統合深化の必要性と政治的脆弱性のジレンマ」

網谷龍介(津田塾大学学芸学部教授)

今年の9月第2週には、ヨーロッパの政策担当者がその行方を注視していた二つの出来事があった。一つは、ドイツ連邦憲法裁判所による欧州金融安定メカニズムの合憲性判断である。憲法裁判所は、批准に際する条件をいくつかつけたものの、予想通りこれを合憲とし、関係者を安堵させた。

そしてもう一つが、同じ9月12日に投票が行われた、オランダ議会下院の総選挙である。現首相ルッテを擁するリベラル政党(VVD)と、最大野党労働党(PvdA)の双方が大きく勢力を拡大し、第一党の座を維持したルッテが首相の座にとどまることが見込まれている。

オランダは伝統的に欧州統合の模範生であった。原加盟国の中ではどちらかといえば市場統合重視の立場をとり、イギリスとの間の架け橋としての役割も担ってきた。1950年代に農業共通市場構想を提起し、後に欧州委員長となったマンズホルト、欧州防衛共同体構想が紆余曲折を重ねる中で経済統合路線を示したバイアン、近いところでは初代の欧州中央銀行総裁を勤めたダウゼンベルヒがオランダ出身の「ヨーロッパ人」達である。

また、1970～80年代の「オランダ病」から脱し、1990年代にはパートタイム労働の拡大による低失業率を実現した社会経済政策改革でも国際的に注目されてきた。「オランダの奇跡(Dutch Miracle)」は、1990年代後半の政策論議のキーワードだった。2012年7月時点でも、EU全体の失業率が10.4%、ユーロエリアでは11.3%に及ぶのに対し、オランダの失業率は5.3%と極めて低い。

しかし、「成功」の背後で、2000年代に入ってオランダ政治の流動化が急速に進んだ・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol08.pdf>

【EUSI 活動報告】

ヴォルガ EU 研究国際センター(ロシア) クズネツォヴァ所長、EUSI を来訪
http://eusi.jp/content_jp/outreach/report-outreach/20120802_director_of_voices.html

8月2日、ロシアのヴォルガ EU 研究国際センター(VOICES)所長であるイリーナ・クズネツォヴァ氏が、EUSI を来訪し、1時間以上にわたり、EU センターとしての

研究教育を中心とした日常の活動状況について意見交換を行いました。

現在ロシアにはEU委員会の支援を受けたEUセンターが、サンクトペテルブルグからシベリア地区まで、6か所、設立されています。

その内、同センターはロシアの中部、タタール・ヴォルガ地区に位置しており、レーニンやトルストイも学んだ歴史あるカザン連邦大学を設立基盤としています。

イリーナ・クズネツォヴァ所長から、同センターはEUと地理的に近いこともあり、EU・ロシア間の人の移動やエスニシティの研究を重視しているとの発言がありました。EUSIからは、アジア域内のEUセンターとの共同研究・教育に向けたネットワーク作りの取り組みを紹介しました。

普段、比較的接点の少ないアジア以外のEUセンターからの来訪により、EU研究教育のあり方について、多様性と同時に共通の問題意識を実感する有益な意見交換の機会となりました。

カザン EU センターの紹介記事と写真

http://kpfu.ru/main_page?p_cid=11849&p_sub=6203 (ロシア語)

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

嘉治佐保子(EUSI 副所長)

Sahoko Kaji, "Economic Stability and Choice of Exchange Rate Regimes"

Public Policy Review (Policy Research Institute, Ministry of Finance)

Vol.8, No.3 (August 2012): 341-365

本論文は、債務危機の原因として、欧州の持つ構造的な問題やその背後にあるガヴァナンスの重要性を強調することを目的としています。

ユーロ圏諸国の経済はユーロ導入前から構造問題を抱えており、それを取り除くことがユーロの一つの重要な目的でした。財政金融政策の自由度を単一通貨導入が奪うことによって、政治的に不人気な構造改革が進むことが期待されたのです。

ところが、ユーロ導入後も期待されたほどには改革が進まない国があり、加盟国間で「非対称性」が生まれました。生産性と競争力を高めないかぎり、欧州の安定的繁栄は持続可能になりません。これは、「ユーロが崩壊」してもしなくても、残る問題です。今日、とかく欧州というとユーロ危機が話題になりますが、背後では、すべての加盟国の生産性と競争力を高め、可能な限り非対称性を取り除くためのガヴァナンス改革が着々と進められています。

そこで本論文では、まず単一通貨と欧州の経済的安定性との関係を論じ、ユーロ導入後も加盟国間で非対称性が残ったことを示します。

次に、現在欧州で行われている徹底的なガヴァナンスの見直しについて論じます。この見直しは本来はユーロ導入前に行われるべきものでした。今回の危機が、ガヴァナンス改革と構造改革を前進させたとしたら、欧州は危機から得るものがあつたと言えるでしょう。

最後に、このことがアジアや日本に対して持つ含意について、改革推進の手段としての為替レート体制という観点から論じます。

http://www.mof.go.jp/english/pri/publication/pp_review/ppr017/ppr017f.pdf

林秀毅(EUSI 主任研究員)

「ECB・無制限国債買入れ発表後の展開 「嵐の10月」というリスクシナリオ」

『欧州債務危機レポート』(日本経済研究センター)2012年9月11日
<http://www.jcer.or.jp/column/hayashi/index120911.html>

林秀毅(EUSI 主任研究員)

「欧州統合・第3の危機」『日本経済新聞』2012年9月26日夕刊「十字路口」

【EUに関するニュース】

- 2012年9月3日 欧州委員会、無線周波数の共用化によるワイヤレス移動通信ネットワーク拡大計画を発表
- 2012年9月4日 アシュトン EU 上級代表、ダッチ・セルビア首相と会談。同国 EU 加盟や対コソボ関係を協議
- 2012年9月4日 アシュトン EU 上級代表、ブラヒミ国連特使と会談。シリア情勢と平和的解決に関する協議
- 2012年9月4日 独伊首脳会談開催
- 2012年9月4日 ストゥルナラス・ギリシャ財務相、ショイブレ独財務相とベルリンで会談
- 2012年9月4日 EU グローバル化調整基金(EFG)、2011年は21000人の労働者雇用支援のため1.28億ユーロを拠出
- 2012年9月4日 欧州委員会、ロシア・ガスプロム社の EU 反トラスト規制違反の疑いにより、調査手続を開始
- 2012年9月4-5日 ファン＝ロンパイ常任議長、メルケル独首相、オランダ仏大統領と個別に会談
- 2012年9月5日 欧州委員会、ロンドン銀行間取引金利(LIBOR)不正操作を受け、基準や指標に関する協議開始
- 2012年9月5日 第3回日・EU 英語俳句コンテスト選考発表。日本からは104句・EUからは419句もの応募
- 2012年9月6日 ECB 理事会、直接金融取引(OTM)計画を決定。3年までの国債を無制限で購入できる仕組み
- 2012年9月6日 メルケル独首相、ラホイ・スペイン首相と会談
- 2012年9月6日 欧州委員会、中国生産のソーラーパネル輸入に関する反ダンピング調査を開始
- 2012年9月7日 欧州委員会、シリア危機に5000万ユーロ緊急支援を発表。累計で1億1900万ユーロと世界最大
- 2012年9月7日 ファン＝ロンパイ常任議長、サマラス・ギリシャ首相とアテネで会談。改革断行を強く要求
- 2012年9月7日 ポルトガル、トロイカ支援確約に向けた追加緊縮政策発表。労働者の社会保障負担引上げ
- 2012年9月10日 アシュトン EU 上級代表、ソマリアの暫定統治終了・大統領選出を歓迎、継続支援を表明
- 2012年9月10日 アシュトン EU 上級代表、タイ政府の未成年犯罪者への死刑廃止決定に対し、歓迎を表明
- 2012年9月10日 財務省、7月国際収支速報発表。債務危機による需要減で、対 EU 輸出は前年同月比25.0%減
- 2012年9月11日 欧州委員会・ECB・IMF トロイカ調査団、ポルトガル財政健全化実施状況に好意的評価を発表
- 2012年9月11日 サマラス・ギリシャ首相、ECB 本部でドラギ総裁と会談。ギリシャ財政健全化断行を確認
- 2012年9月11日 駐日 EU 代表部「EU-Japan Seminar on Communicating Science, Technology & Innovation」
- 2012年9月12日 欧州委員会、銀行監督一元化制度(SSM)を提案。EBC に銀行監督権を付与、銀行同盟への一環
- 2012年9月12日 バローゾ委員長、欧州議会にて、SSM 法案の主旨や、ギリシャの緊縮断行の重要性を強調
- 2012年9月12日 オランダ下院議院選挙。財政再建の与党自民党(VVD)僅差で勝利、欧州懐疑派諸勢力は敗北
- 2012年9月12日 ドイツ憲法裁判所、ESM 及び新財政協定に合憲判断。ただし支援増額は下院同意との条件付
- 2012年9月12日 Eurostat、7月鉱工業生産統計。前月比ユーロ圏0.6%増、EU内1.1%増。前年比ではともに減
- 2012年9月12日 J-BILAT セミナー「国際協力プロジェクトにおける科学・技術マネジメント」名古屋で開催
- 2012年9月13日 ガウク独大統領、欧州安定メカニズム(ESM)設立法案署名。10月8日にESM正式発足へ
- 2012年9月13日 バローゾ、モルシ・エジプト大統領とブリュッセルで会談。5億ユーロのマクロ経済支援表明
- 2012年9月13日 ヌーナン・アイルランド財務相、ショイブレ独財務相とベルリンで会談
- 2012年9月13-28日 欧州俳人による四国俳句巡り、香川・愛媛で開催
- 2012年9月14-15日 EU 財務相非公式会合、キプロスで開催。ECB 銀行監督一元化やギリシャ・スペイン救済

協議

2012年9月14日 デギンドス・スペイン経済相、追加構造改革案を9月末策定と表明。翌日首都で大規模反対デモ

2012年9月15日 サマラス・ギリシャ首相、米ワシントン・ポスト紙に、財政再建目標の2年延長要請中と表明

【編集後記】

今回は、ドイツを中心とした比較政治学専攻の網谷龍介教授による巻頭エッセイをお送りします。

欧州危機は、経済面に着目すると、「財政危機と金融危機の悪循環」を起きていると指摘されてきました。財政危機を直接的に解決する手段が規律を重視するドイツなどの強硬な反対により取りにくいいため、現実策として「銀行同盟」のような金融危機の打開策が決定されていると考えられます。

同時に、より高い次元で見れば、欧州の現状は、経済と政治の不安定化が同時に進み増幅しあう悪循環になっています。特にオランダやフィンランドといった小国は、自国だけではEUレベルの政策決定に影響を与えにくく、独仏などの大国の間で独自性を発揮しにくいいため、現状では国民のEUに対する反発が一層強まりやすい面があるといえるでしょう。

(林 秀毅・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

今年度より始まりました本 EUSI メールマガジンも、気付けば先号を以って無事10号を迎えました。編集担当である私自身は、普段は広報のような仕事をしたこともなく、「EU 研究に関するメールマガジンとゆっても、何をやればいいのかだろう？」と企画案段階で相当悩みながら、手探りの状況でスタートしたのをよく憶えています。

当初は月1回の発行予定でしたが、創刊号を評価してくださった先生方より月2回にしようとお話しを頂き、その後コンスタントに途切れることなく刊行し続けることができたのは、読者の皆様と、外に向けて熱心に研究し続けておられる多くの EUSI の研究者の先生方の御蔭と感謝申し上げます。

EU に関するメールマガジンと言えば、代表的なのは駐日欧州連合代表部による「EUMag」があります。こちらは大変綺麗で読みやすく、しかも情報も豊富で、専門的に偏らず一般向けに分かりやすく頻繁に発信しているのを見て、広報に力を入れるということがいかに大事なことかと、いつも感心させられます。

EU 研究の活動も然りで、我々の研究活動を世に発信してゆく作業を今後も欠かさず続けてゆければと願っています。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp
